

▶ COP10協賛事業「テーブルの上の生物多様性」

2010年10月に愛知県名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に協賛し、ユニーの売場にある食品も「生物多様性」につながっていることをお客様や従業員にも知ってもらい、「生物多様性」を身近なものにしてもらうために、「テーブルの上の生物多様性」をテーマとしました。普段の生活も生物多様性につながっていること、そして「私達が食べているものは、生き物の命」ということを伝え、自然環境やそこで生きる生物を大切に守りながら生産した食べ物を選んで購入し食べることで、生物多様性に貢献できるのだということを知ってもらうためのイベントを開催しました。

テーブルの上の生物多様性

～毎日のテーブルの上にある食べ物は
「生物多様性」の恵み～



母牛が子牛のためにつくったお乳を分けてもらいます。

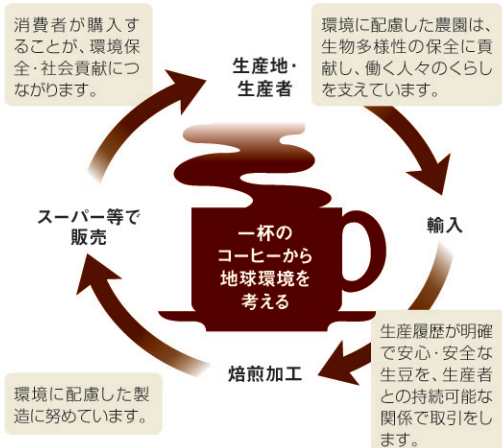
食品リサイクル～命をつなぐ環

食べられなかった食品残さを原料にした堆肥を使い、微生物やミミズが生きている健康な土壌で野菜や米が育てられています。



サステナブルコーヒー

熱帯雨林の下で栽培するシェイドグロウン農法。ジャングルの木陰で育てたコーヒーは、虫やカエルの生きるジャングルの環境を守ります。



サステナブルコーヒー

コーヒーの生産地は途上国が多く、さらに生物多様性が失われつつある地域が多いため、生産地の生物多様性を保全しコーヒーを栽培し続けるために、消費者である私達が、サステナブル（持続可能な）コーヒーを選んで飲むことが支援につながります。

こうしたサステナブルコーヒーを推進する団体は、「コンサベーション・インターナショナル」（アメリカ）、「レインフォレスト・アライアンス」（アメリカ）、「グッドインサイド」（オランダ）、「フェアトレード・ラベル・ジャパン」などがあり、ユニーではこれらの団体が認証しマークをつけた商品を販売しています。また、2008年に設立された「日本サステナブルコーヒー協会」の「サステナブルコーヒーの普及に貢献し、コーヒーを通じて生産地の自然環境・社会経済のサステナビリティの維持向上に寄与する」という活動に賛同し、お客様に知っていただき飲んでいただく活動を実施しています。

日本サステナブルコーヒー協会

地球の環境と人権を守りながら、生産者も安心してコーヒー栽培に励み、消費者も安心しておいしいコーヒーを飲み続けられる世界を目指して活動しています。



レインフォレスト・アライアンス認証

農園とその周りの環境及び野生生物の保護、働く労働者の人権、家族や地域共同体を含めた人々への教育、医療などの生活環境の向上、農園経営方法の改善等の基準を満たす農園を認証しています。



フェアトレード認証

発展途上国の小規模生産者の自立を支援し、適正な価格での長期的で安定した売買契約を保証しています。生産地の生活状況や労働条件の改善と環境保護の促進を目指します。



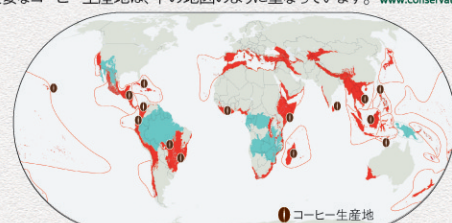
グッドインサイド認証

トレーサビリティ（流通履歴の透明性確保）や、労働者の賃金や健康、農業・廃棄物の管理など厳しい基準を満たした農園を認証することで、農作物の持続的なサプライチェーンの実現を目指しています。



世界のコーヒー生産地とホットスポット

コンサベーション・インターナショナル (CI) は、地球上で生物多様性の保全が特に重要な地域を「生物多様性ホットスポット」に指定し、地元の人々の暮らしと自然環境を守る活動に取り組んでいます。「生物多様性ホットスポット」には、絶滅が心配される多くの生物が生息していますが、その地域に元からあった自然生態系の70%以上は、既に失われています。生物多様性ホットスポットと世界の主要なコーヒー生産地は、下の地図のように重なっています。



■ 生物多様性ホットスポット ■ 生物多様性の豊かな原生自然地域
● コーヒー生産地
© Conservation International